

※このメールマガジンはMSゴシック等の等幅フォントでご覧ください。

★もくじ★

〔1〕 1分で分かる姫路河川国道事務所の仕事「所長の一分メモ」
「油の扱いは適正に。」

〔2〕 お知らせ
「加古川流域委員会設立準備会議」が開催されました！

〔1〕 所長の一分メモ file 8
「油の扱いは適正に。」

明石海峡で起きた船舶衝突事故。発生から早2週間が経ちました。
発生直後から、事故現場の目の前にある東播海岸（神戸市垂水区から播磨町）にも、延長約20kmのうち9割の海岸に、沈没したゴールドリーダー号の燃料重油が漂着しました。

重油は潮の干満により砂浜に取り残され、直径1～10cmの円盤形で、点々と斑点状に幅2m程度で帯状に漂着していました。

東播海岸を所管する姫路河川国道事務所東播海岸出張所では、一般市民の海岸利用に支障が生じると判断し、直ちに漂着重油の回収作業に入りましたが、すべてが手作業。
私も現地で回収作業に参加しましたが、かがんだ状態で一つ一つ重油の塊を拾い上げる作業は結構大変です。

根気のいる地道な作業の結果、17日までの回収量合計は土のう袋で56袋（重量560kg）となりました。
一番多かった日は8日（土）で20袋（重量200kg）にも。
現在はほとんど漂着する重油はなくなり一安心といったところです。

回収では地元自治体も事故直後から回収作業にあたられた他、地域のボランティアの方々も回収作業をされるなど、地域と行政が一丸となった作業となりました。
大変ありがとうございました。

丸4日間ずっと現地に詰めて現地指揮にあたった刈谷出張所長をはじめ事務所一同も東播海岸の環境が回復したことで胸をなで下ろしているところです。

しかし、今回の事故では死傷者や行方不明者が出ていますし、海苔やイカナゴ漁などの水産被害も甚大と聞いております。
関係者の皆様にお見舞い申し上げますとともに、これからの海の安全を心からお祈りしています。

〔2〕 お知らせ

今後20～30年間の具体的な川づくり計画を策定するための「加古川流域委員会」の設立に向けて、去る2月27日に「第1回加古川流域委員会設立準備会議」が開催されました。

この設立準備会議は、加古川をフィールドに活動されている各界の方々を構成メンバーとして、流域委員会の委員構成や運営のあり方等を検討していただき、姫路河川国道事務所長に提言していただくこととなっています。

第1回設立準備会議では、本会議の運用規定が承認され、今後の本会議の運営や情報公開さらには流域委員会の規約案の検討等が行われました。

会議の議事等については、当事務所ホームページ（<http://www.himeji.kkr.mlit.go.jp/>）の「トピックス」に、記事を掲載しておりますので、是非ご覧ください。

